

JAXA タウンミーティング in 大阪科学技術館 開催報告

平成 27 年 3 月 28 日、JAXA タウンミーティング in 大阪科学技術館「“宇宙” 輝く未来！～宇宙航空開発技術を身近に～」を開催しました。今回は、JAXA が取り組んでいる災害救援活動への航空機や人工衛星を使った支援システムの研究開発や、「きぼう」日本実験棟の利用について話題をお伝えし、会場の参加者と活発な意見交換がなされました。

■開催日時 平成 27 年 3 月 28 日（土） 14:00～16:30

■会場 大阪科学技術センター4 階 401 号室

■参加者数 100 人

■登壇者

・渡辺 安 JAXA 航空本部 事業推進部 技術研究企画室長

「大規模災害への備え—航空機の利用拡大で安心できる社会へ—」

・坂下 哲也 JAXA 有人宇宙ミッション本部 宇宙環境利用センター 技術領域リーダー

「宇宙実験のビジネスへの利用～宇宙ステーションをあなたの課題解決に使ってみませんか～？」

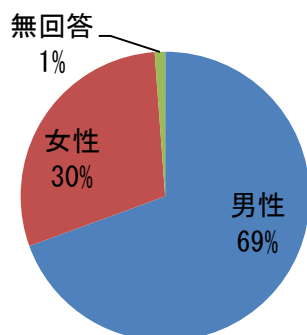
・加藤 善一 JAXA 理事

■進行コーディネーター

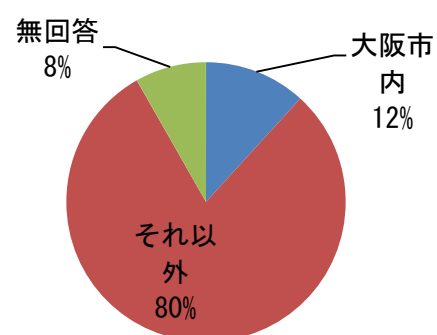
JAXA 広報部長 上垣内 茂樹

アンケート回答者の属性（有効回答数：85）

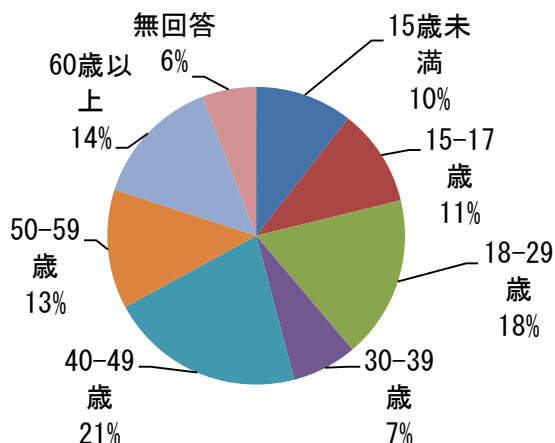
1. 性別



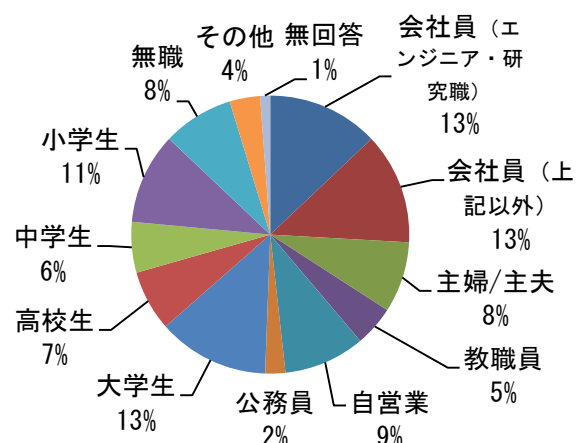
2. 居住地



3. 年齢



4. 職業



当日出た主なご意見（意見投稿、アンケート記入分も含む）

「大規模災害への備え—航空機の利用拡大で安心できる社会へ—」

- ・ 民間企業と連携してジェットパックを開発し、活用を検討してはどうか。ヘリよりコストがかからない。
- ・ 広域的な災害への対応にふさわしいが、組織間のソフト的な検討が前提になるのではないかな。
- ・ 初めて D-NET を知ることができた。
- ・ 思っていた以上に JAXA が災害対策に貢献していることを知った。
- ・ 24 時間運用や V22（オスプレイ）の利用が必要と思った。
- ・ 広域災害での共通プラットフォームとして受注できるとよい。安い衛星回線を普段使えるとありがたい。
- ・ 実現はまだまだ簡単ではないと感じたが、理想的なシステムだと思う。このようなシステムの開発は優先して進めるべきだと思う。
- ・ 航空分野の研究が行われていることを全く知らなかったのも、もっと知りたいと思った。
- ・ 今後の災害に備え D-NET2 の開発を期待している。このシステムは救急や防犯などいろんな分野へ転用できると思う。

「宇宙実験のビジネスへの利用～宇宙ステーションをあなたの課題解決に使ってみませんか？～」

- ・ 宇宙芸術について、これまでの取組をまとめて DVD にしてほしい。
- ・ 宇宙ステーションの意義をもっと見える化してほしいと思った。
- ・ すぐにはアイデアがわからないが、宇宙空間での人文系の研究に興味がある。
- ・ 具体的な宇宙実験の費用が分かりよかった。
- ・ 宇宙実験に民間が参加しやすい環境づくりが必要と感じた。
- ・ 関心はあるが個人で利用するのは難しそうだった。
- ・ 日本実験棟の利用でビジネスだけでなく、病気の原因の解明や問題解決に期待する。
- ・ 宇宙が身近なものに感じられた。

タウンミーティング、その他について

- ・ 打上げの際、相乗り衛星の分離まで JAXA 放送で実況中継できないか。
- ・ 若い方の新たな広報活動を応援している。もっと自由に幅広くやってほしい。
- ・ 情報公開を行っている場所などを聞きたかった。
- ・ 国産有人ロケットについて討論会をしてほしい。
- ・ 各地方の大学などで宇宙講演などしてほしい。
- ・ 宇宙関連技術の利用にとっても興味がわいた。関西にも大学、研究所、産業がたくさんあるので JAXA の事業所を設けてほしい。
- ・ JAXA の取組についてもっと知りたいので時間が少ない気がした。
- ・ 宇宙開発を防災に役立てる開発に期待している。
- ・ もっと大阪で JAXA 主催のイベントをしてほしい。
- ・ もう少し大きい声でゆっくり話してほしい。
- ・ 各地でイベントを開催し、開発した技術を国民に伝えてほしい。もっと予算をとれるよう宣伝してほしい。

